

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑬子どもの生活面における対応

- ◆ 食中毒の種類や原因が多く驚きました。しかし、十分な手洗いと加熱、常温放置はしない、調理器具はなるべく使い回ししないなど、当たり前のことをちゃんとすれば、多くの食中毒は防げることや、アレルギー症状には皮膚、内科系、目、口など多数のほか、命に関わるアナフィラキシーショックがあるということを学びました。食物アレルギーのある子どもに関しては、保護者、学校、支援員間の連絡を密にし、エピペンの使い方を知っておくべきと学びました。
- ◆ 子どもの生活面における対応で、出席確認、健康状態、心と体の観察、子どもの様子を日常的に保護者に伝えることが大切だと学びました。また、エピペンの使用に当たってはみんなが打てるようにしておいて、連絡する先は保護者なのか、救急車なのかを事前に決めておくようにしたいと思います。以前にエピペンを使用する子どもが放課後児童クラブを利用していたことがあり、今後活かしていきたいと思いました。
- ◆ 「食の安全」がいかに大切かということを今回の研修で学びました。特にアレルギーのある子どもへの対応は職員同士で情報を共有して、しっかりと安全の確認に努めていきたいと思いました。また、好きな物だけを食べる子が多い中で、少しでも初めての物にチャレンジできるような言葉がけを意識して、楽しい食の時間が過ごせるようにしたいと思います。
- ◆ 食中毒・感染症は日常の衛生管理を行うことやスタッフが感染源にならないように、隠さず何でも話せる場を設定することが大切だと学びました。食物アレルギーは全年齢層において増加状況にあり、症状は多岐にわたるため、個々の症状をしっかりと把握し、症状が出た際には適切に処置できるよう、対応の仕方、薬の確認などを全職員で共有することが大切だと学びました。自分たちが気を付けるのは当たり前ですが、子どもたちへの衛生指導をしっかりと行い、予防に努めていきたいと思います。
- ◆ 子どもの生活面で気を付けないといけない感染症やアレルギーについて詳しく学ぶことができました。菌の感染を防ぐために、環境を整えたり、施設へ持ち込まないこと、早期発見にすぐに対応できるようにするなど、職員同士できちんと連携する大切さを感じました。また、アレルギーでも、即時型や特殊型によって症状の出方が変わることなどを確認することができました。エピペンの対応についての話も分かりやすかったです。